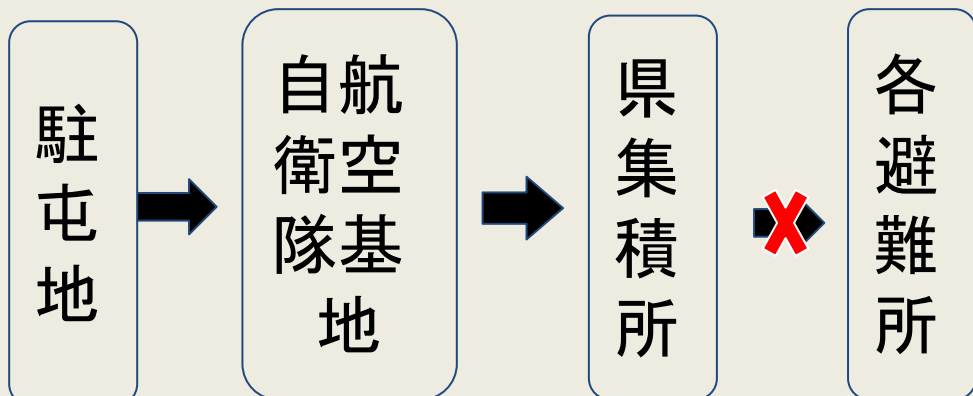


1班 東日本大震災から考える防災バッグの提案

背景

東日本大震災時の問題

- ・緊急輸送体制が不十分
- ・物資輸送の遅延



⇒支援物資が来るまで自分たちでやりくりしなくてはならない！

→現在推奨されている防災バッグをアレンジして大衆化されたより便利なものにできるのではないか。

被災地の人の声

避難所にいた人の当時の状況を聞きました

トイレが混んで大変でした。衛生環境もあまり良くなかったです。

→トイレをより工夫する必要がある。

上着を着たり、毛布にくるまっててもにかく寒くて毎日が寒さとの戦いでした。

→断熱性のあるアルミ寝袋の使用。

周りの人が体調不良を訴えてました。

空腹で食料が来るのが遅く感じました。

→お腹にたまる米やパンはもちろん、栄養に偏りがないようにしなくてはならない。

持ってきた食料が賞味期限切れで使い物になりませんでした。

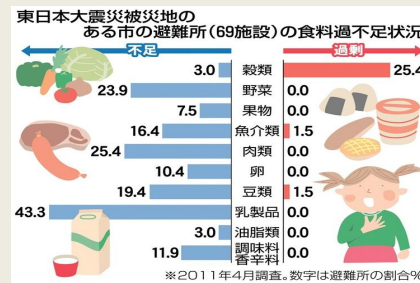
→定期的な点検が必要。

調査結果

従来

●食料

- ・非常食
アルファ米、乾パンなど



⇒空腹を満たすこと中心
結果：健康問題が起こる

●衣類

一日分の衣類の準備が推奨されているが、先行研究から、衣類の需要は**10%**

●感染症対策用品

マスク、石けん、体温計、手指消毒用アルコール

●トイレ

・避難所に設置されているトイレを使用

衛生環境悪い

混雑する

和式が多く高齢者等に優しくない

●その他小物

ラジオ、ろうそく、救急用品、電子機器等

新型

●食料

ビタミン不足による健康被害



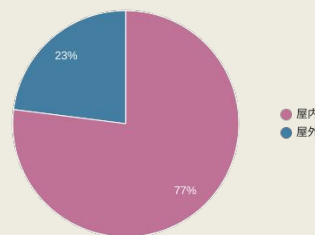
野菜、食物繊維の必要

- ・保存用の野菜ジュース
- ・魚、野菜の缶詰

●衣類

避難時の負担になりにくい下着の代えは準備するが、衣服は準備しない

低体温症死亡場所



●トイレ

- ・簡易用トイレを用いる
- ・軽量で持ち運び可
- ・袋ごとでかさばらない

●その他小物

ラジオ、懐中電灯等はスマホで代用

まとめ

被災地の経験を活かして私たちにできることをしてきました。地震や津波の記憶が鮮明に残っている沿岸部の方々からも意見やアドバイスをいただき、従来の形から次に起こるであろう災害に対応できる防災バッグをつくれたと思います。

参考文献

防災バッグ持ち出し時における保育者の運動強度及び身体的負担 東日本大震災における 救援物資供給停滞の発生とその要因災害に対するご家庭での備え～これだけは準備しておこう

発災後3日後の備え 2011.3.11朝日新聞震災状況 西日本新聞「助かった命なのに…」避難所の食、足りないおかず 場所による格差